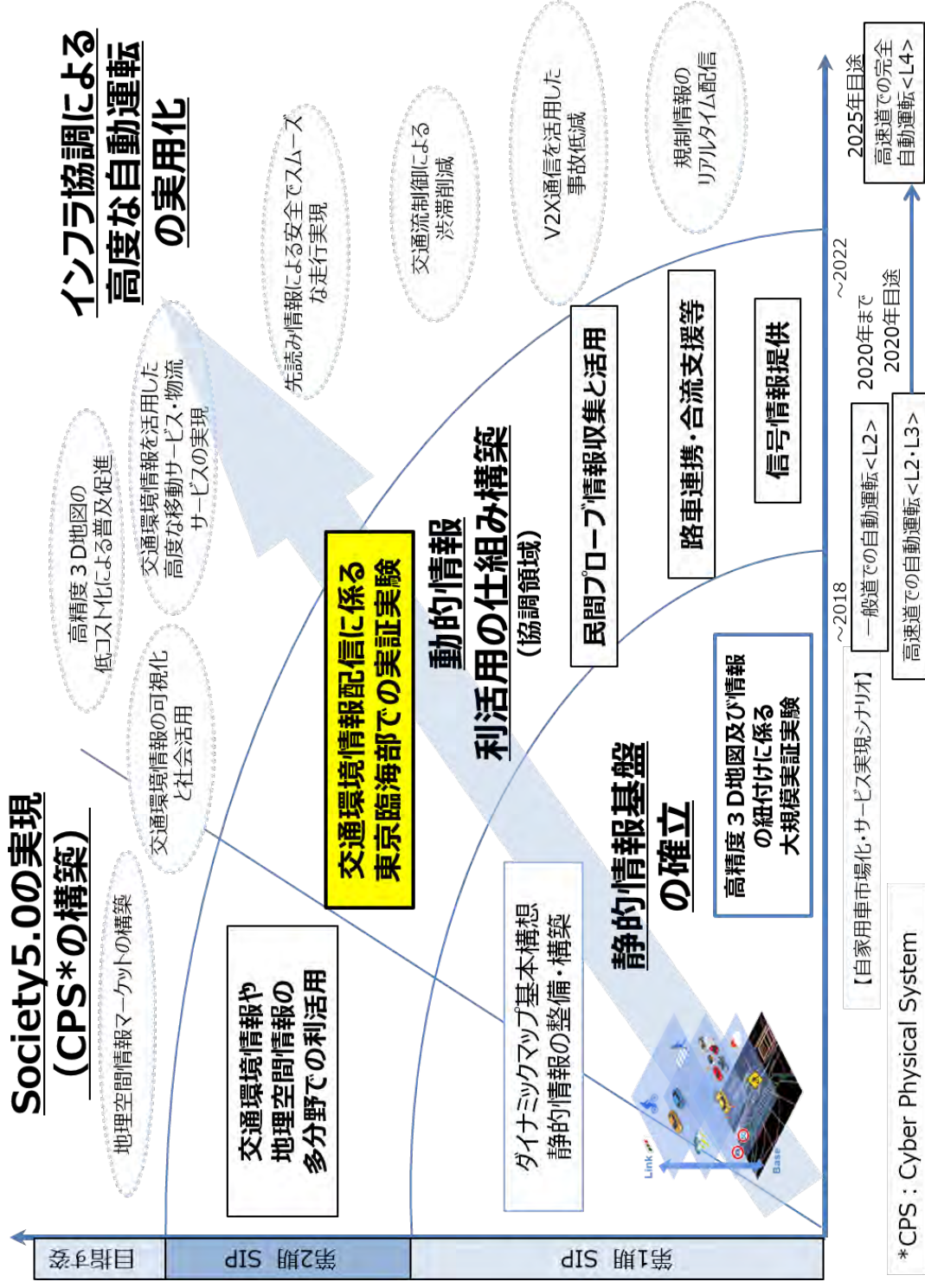


東京臨海部実証実験 計画概要

2019年6月5日

交通環境情報利活用のロードマップ

➤ 交通環境情報の利活用により高度な自動運転とSociety5.0を実現する



東京臨海部実証実験の狙い

- 公道・混在交通下における国際的にもオープンな実験環境下での実証実験により、産学官が連携して高度な自動運転の実現の加速に取り組む。

実証実験の目的

- 研究開発の促進
- 国際的な協調/標準化
- 社会受容性醸成
- 技術訴求

達成方策

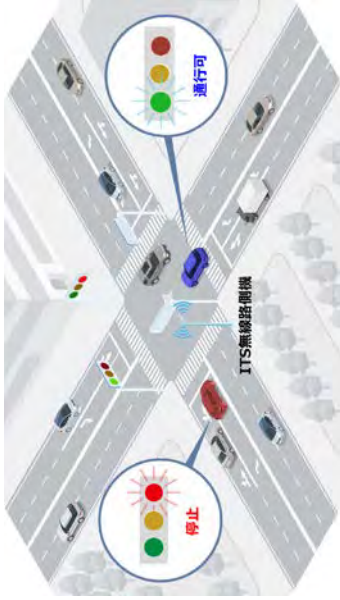
- ✓ 交通環境情報の整備・提供・実証の実施
- ✓ マッチングファンドによる民間投資誘引
- ✓ 海外含めたオープンな実験参加者募集
- ✓ 産学連携による実験成果の共有
- ✓ インパクトアセスメントの実施
- ✓ 広報イベントの企画
- ✓ 2020オリパラの機会活用した自工会連携
市民参加イベントの企画

東京臨海部実証実験の概要

〔実証内容とエリア〕

信号情報提供

高精度な3Dデジタル地図情報と
信号の現示及び切替タイミング情報
による、一般道での高度な自動運転



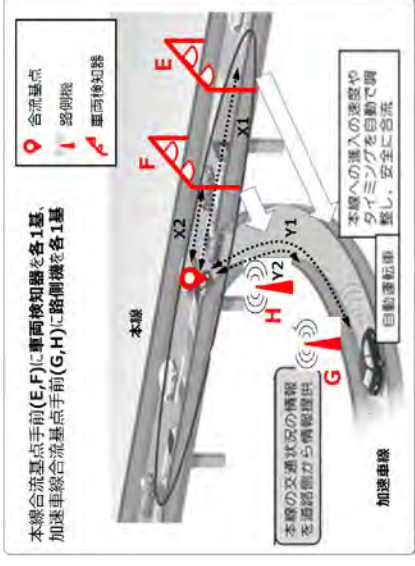
【臨海副都心地区】

高速道本線合流支援

高精度な3Dデジタル地図情報、
ETCゲート情報と本線側車両情報
による、高速道での高度な自動運転



【首都高(羽田線・湾岸線)】



【羽田空港地区】

公共交通システム (自動運転バス)

自動運転技術の活用とインフラ
協調システムによる、混流交通下
での次世代型ART

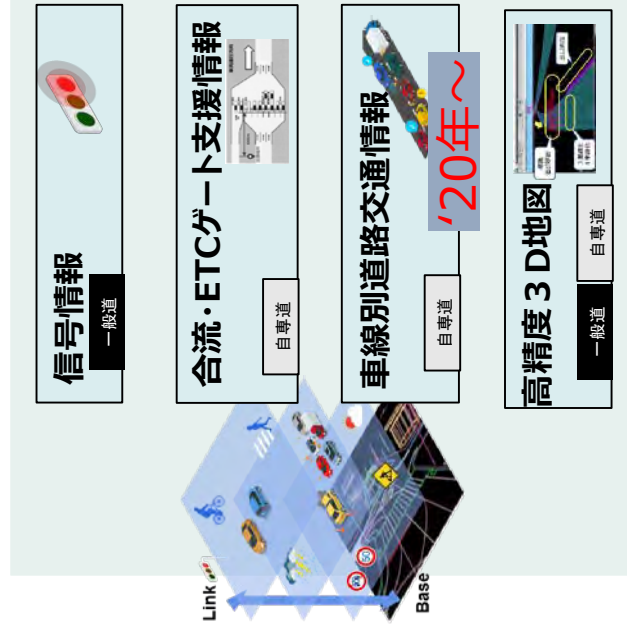
(ART: Advanced Rapid Transit)

交通環境情報の整備・提供・実証取り組み

交通環境情報利活用の
実証環境構築

実交通環境における
実証実験

参加者による実証と
合意形成



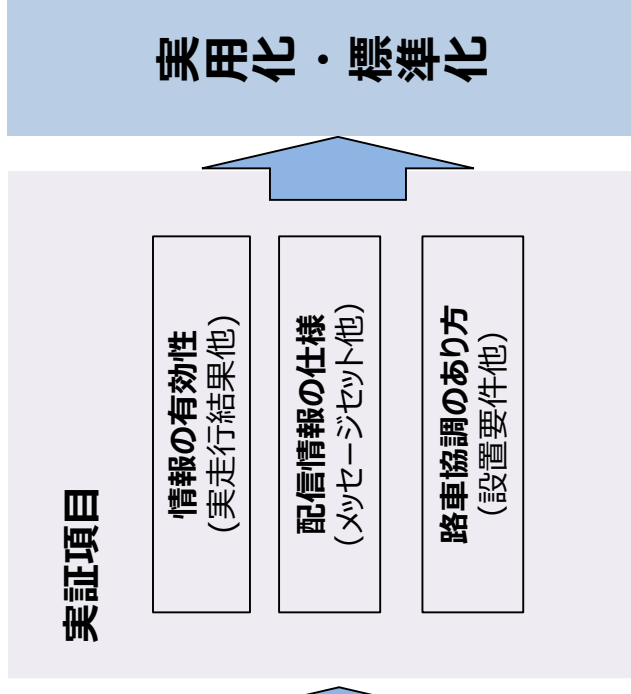
※研究開発の進捗に応じ技術テーマ増減の可能性がある

【進捗状況】

- ・ 道路管理者、東京都、関係府省庁等の連携によりインフラ設備の開発・設置整備を平成30年度より推進中

- ・ 効果仮説に基づく実験手法立案済
- ・ 検証の為の多面的なデータ収集に向け機材選定中
(インパクトアセスメント手法含む)

- ・ 国内外カーメーカー、サプライヤ、大学、ベンチャー企業
28機関（22グループ）
(最大約100台の参加規模)
(マッチングファンド方式)



広報・市民参加イベント（検討中）

企画考え方

- 最新実験車両 ＊ インフラ協調システム、**現物による先進性の訴求**
- オリ・パラ会場となる**臨海部での継続的な情報発信**
- **一般市民/メディア、海外を含む専門家、政策関係者、それぞれに対する訴求**
- **技術プレゼン型イベントとサービス体験型イベントによる効果的な発信**
- 自工会との連携ほか、国内外メーカー、大学、ベンチャーの参画

今後の進め方

- ✓ 実証実験参加者様への車両・要員協力要請。
- ✓ 最大効果に向けた全体広報戦略とイベント企画の緻密化。

大日程

